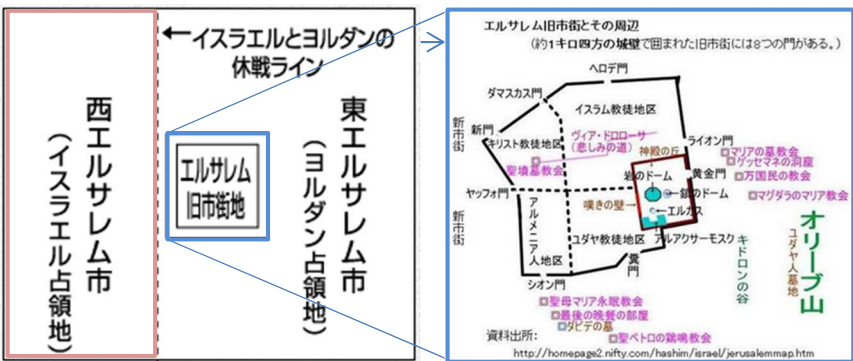


✠028 エルサレム Jerusalem

イスラエル・パレスチナの都市（イスラエル東部）にある都市で、名称の由来は「平和の町・聖なる家」である。イスラエルは同国の首都と主張しているものの、国際連合を初めとして多くの国家は認めていない。地中海から内陸部に入った標高 800 メートルの小高い丘の上に位置する。ユダヤ人が住む西エルサレム（エルサレム西部、1947 年の国連によるパレスチナ分割決議（イギリスが統治を行う委任統治を終わらせ、アラブ人とユダヤ人の国家を創出し、エルサレムを特別な都市とすること）によってユダヤ人居住地とされた地区。新市街でイスラエル博物館・国会議事堂・官公庁・ヘブライ大学・商業施設などがある。中東戦争以降、イスラエルはこの地のみならず旧市街を含む東エルサレムをも実効支配している。）とアラブ人居住区である東エルサレム（エルサレム東部のヨルダン川西岸地区に位置する地域で、イスラエルが実効支配している）から成り立っている。西部についてはイスラエルに位置する一方で、東部についてはパレスチナ自治政府も領有を主張し、エルサレム県（パレスチナ自治区ヨルダン川西岸地区に位置する県）に含まれるとともにパレスチナ独立後の首都と規定している。

エルサレムは、古代イスラエル・ユダ王国の首都で、「エルサレム」神殿がかつて存在した。イエスキリストが処刑された地でもあり、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教共通の聖地となっている。



←エルサレムの旧市街は東エルサレムにあり、旧市街はユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地である。

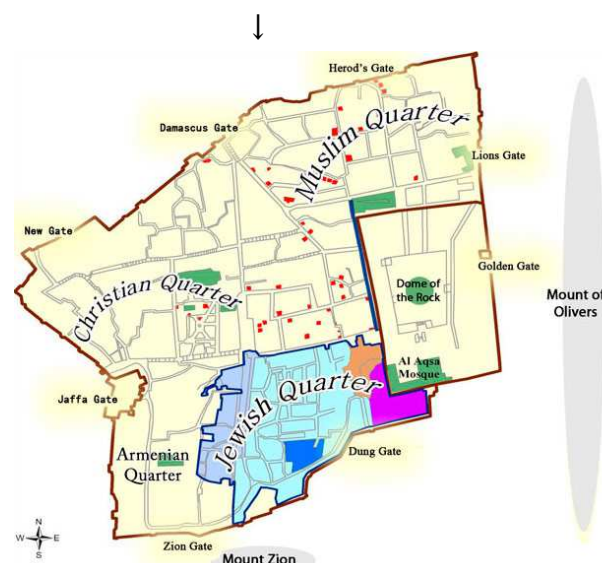
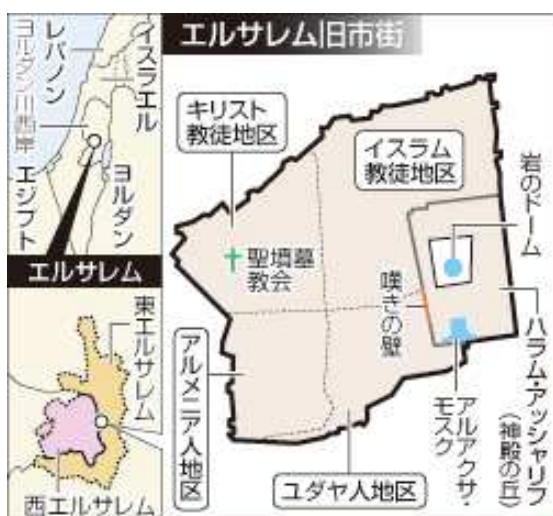
右図：エルサレム旧市街拡大図

※中東戦争：ユダヤ人国家イスラエルと周辺アラブ国家（加盟は 22 = 21 カ国と 1 機構）との間での戦争である。1948 年から 1973 年までの間に大規模な戦争が 4 度起こっており、それぞれが第一次から第四次に分類され、今も進行中である。



参考地図 東エルサレム⇒エルサレム旧市街
西エルサレム

エルサレム旧市街（英語表示）



※エルサレム旧市街は東エルサレムにあり、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖地である。

エルサレム旧市街のイスラム教聖地ハラム・アッシャリフ（「アルアクサの丘」、ユダヤ教では「神殿の丘」）をめぐる、イスラエルとパレスチナの緊張が高まり、各地で衝突が起きている。事態收拾のめどは立たず、「インティファダ（反イスラエル民衆蜂起）」に発展する懸念が現実味を帯びつつある。ハラム・アッシャリフはユダヤ教の聖地「嘆きの壁」の上に位置し、ユダヤ教徒の聖地でもある。現在、治安上の理由などからユダヤ教徒は敷地内で祈ることは禁じられている。だが、最近、礼拝の権利を主張する右派ユダヤ教徒の訪問が増加。「現状変更しようとしている」と反発するパレスチナ人とイスラエル治安当局との衝突が頻発している。混乱はエルサレムだけでなく、ヨルダン川西岸のパレスチナ自治区やイスラエルのアラブ人都市にまで拡大。イスラエルのネタニヤフ首相は9日、「暴動は一切許さない」と述べ、投石や花火で攻撃を仕掛けるパレスチナ人を「あらゆる手段」で取り締まると警告した。両者の緊張が高まった発端の一つは、10月末に起きたユダヤ人右派活動家に対する殺人未遂事件だ。イスラエル治安部隊は翌日、「容疑者」のパレスチナ人の男を射殺。また、聖地を閉鎖する異例の措置を取った。これを受け、アッバス・パレスチナ自治政府議長は「パレスチナ人への宣戦布告だ」と非難し、緊張が激化した。（時事通信社 2014/11/10）